

平成 30 年度

事 業 報 告 書

学校法人 鶴鳴学園

平成 30 年度事業報告書

学校法人 鶴鳴学園

はじめに

長崎女子短期大学においては厳しい募集状況にあった生活創造学科の介護福祉士コースの募集を停止し、「栄養士コース（60 名）」と「ビジネス・医療秘書コース（40 名）」の 2 コース（入学定員 100 名）体制となった。幼児教育学科（入学定員 100 名）と併せて 2 学科 2 コース（入学定員 200 名、総定員 400 名）体制となった。

長崎女子高等学校においては、施設設備の整備が完了し、校舎全体が一新された中で、普通科選択制高校として 4 年目となり、教育内容の真価が問われるスタートであった。

長崎女子短期大学附属幼稚園においては、短期大学幼児教育学科との連携を深め附属幼稚園としての特色を更に鮮明にして、地域に根差した幼稚園創りに取り組んだ。

I. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業

(1)施設設備の整備

厳しい財政状況下であるが、平成 30 年度においては、短大体育館及び高校第一、第二体育館照明の LED 化工事など以下のような施設、設備の整備を図った。

<短期大学>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
短 大	小会議室空調機更新	ダンレイ中央(株)	490	
〃	体育館照明 LED 化	(株)ナガネツ	1,952	
〃	2 号館ロビー照明 LED 化	(株)イナヅマ電気	580	
〃	メールサーバー導入	三谷商事 (株)	1,620	
〃	高速ポリシャー	(有)吉末クリーン	130	
	計		4,772	

<高等学校>

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
高 校	第一、第二体育館照明 LED 化工事	ナガネツ(株)	5,510	
〃	胸像廻り庭園工事	(有) 本田緑泉	1,620	学園長寄付による工事
〃	LL 教室機器更新	(株) イシマル	14,742	
〃	第一体育館ステージスクリーン	(株) イシマル	329	
	計		22,201	

＜幼稚園＞

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
幼稚園	職員室空調機工事	ダンレイ中央 (株)	259	
〃	印刷機 (リソグラフ)	(株)イシマル	291	
	計		550	

＜本部＞

(単位：千円)

部 門	内 容	業 者	金 額	備 考
本部	空調機副理事長室	ダンレイ中央 (株)	160	
〃	ノートパソコン	(株) イシマル	114	
	計		274	

施設設備 合計 (短大+寮+高校+幼稚園) : 27,797 千円

(2)高大連携事業

①高一 「学校見学説明会」

期日：平成 30 年 7 月 6 日(金) 14：00～15：40 場所：短大

1 年生全員 131 名が参加

2 年次における系列決定に向け、短期大学が設置する各学科・コースの理解を深める。

②高二「系列別ガイダンス」

期日：平成 30 年 7 月 11 日 (水) 13：30～15：00 場所：高校

2 年生 104 名 (こども系列 38 名、くらし系列 34 名、しごと系列 32 名)

短大教員及び学生によるプレゼン、実技を実施

③高二「体験学習会」

期日：平成 30 年 9 月 19 日 (水) 14：00～15：20 場所：短大

2 年生 104 名 (こども系列 38 名、くらし系列 34 名、しごと系列 32 名)

最終的な進路決定に向けた進学意識の高まりを図る。

④高三「ピアノ応援プラン」

期日：8 月 6 日 (月) ～8 日 (水) 場所：短大

短大幼児教育学科希望 3 年生 22 名

講義、演習、個別レッスン

(3)幼大連携事業

①幼児教育学科 2 年生の卒業研究に向けた協力。

②短大附属幼稚園としての位置づけをより鮮明にするため、幼児教育学科学生の教育実習に加えて、1 年生の体験学習も実施。

③短大幼児教育学科教員と附属幼稚園教員との意見交換会の実施

(4)短大卒業研究発表会の開催

短大の2年次に取り組んでいる「卒業研究」の発表会を平成30年度も記念ホールにおいて以下のとおり開催した。

介護福祉士コース 第17回	日 時 平成30年10月30日(火) 9:30～12:30 施設来賓14名、保護者7名、長崎女子高生12名、女子高関係者2名、学園及び短大関係者19名
ビジネス・医療秘書 コース 第29回	日 時 平成31年1月29日(火) 13:00～16:00 高校生12名、学童関係者1名、報道関係者3名、学園及び短大関係者19名
栄養士コース 第25回	日 時 平成31年2月6日(水) 13:00～15:20 保護者10名、非常勤講師1名、高校生4名、短大及び学園関係者25名
幼児教育学科 第38回	日 時 平成31年2月5日(火) 9:15～15:15 施設来賓20名、非常勤講師11名、保護者53名、卒業生等一般21名、高校生45名、学園及び短大関係者29名

(5)地域との連携及び開放

短大各学科・コースで実施している公開講座、開放講座の他、学校施設の開放にも積極的に取り組んだ。

○短大公開講座（平成30年度）

講師	講 座 名	開催期日	受講数	開催地
山口ゆかり	長崎食育学講座「男性向け料理教室」学生と作る簡単“父の日膳”	H30.6.16	22名	短大
江頭万里子	秘書検定から学ぶビジネスマナー講座	H30.7.8	4名	〃
江頭万里子	小学生のためのマナー講座 ～すごろくで楽しくマナーを学ぼう～	H30.8.17	38名	〃
植木 明子	アロマで癒しを～ハンドマッサージと生活の中でのアロマ使用～	H30.9.8	20名	〃
古賀 克彦	長崎食育学講座 島原の郷土料理	H30.9.15	24名	〃
本村弥寿子 福井謙一郎	子育て支援保育講座 親子の絆と遊び・お話し会	H30.9.26	51名	学外
蛸原 正貴	子育て支援保育講座 親子でからだ遊び	H30.10.28	20名	短大
田川 千秋	高齢者出前講座 指先を使って新聞紙でペーパーバッグを作ろう・紙芝居を楽しむ	H31.2.20	18名	学外
本村弥寿子 福井謙一郎	子育て支援保育講座 親子の絆と遊び 手作り教材と生演奏によるお話し会	H31.2.28	大30名 子46名	学外

(6)その他短期大学における主な取り組み

- ①九州地区 8 短大での共同研究「コンソーシアム九州」に参加
 - ・高校訪問キャラバン隊（諫早商業、こころ未来高校）
 - ・短大フェス 2018in 長崎（H30.10.21 実施、於ベルポート観光通り）等

②FD 研修会

日 時：平成 31 年 3 月 18 日 9：10～11：50

テーマ i 授業評価アンケートの分析・公表の方法、及び学生や学外者を含む授業改善のFD研修について

ii 学習成果の評価方針（アセスメントポリシー）検証及びシラバスの作成方法について

iii 学生の学習指導やキャリア相談における学習成果の活用について

③SD 研修会

日 時：平成 31 年 3 月 18 日 12：40～14：50

テーマ：「3つのポリシーとPDCAサイクルによる内部質保証の成果検証」

報告者：各学科・コース長、事務局長、入試広報室長、キャリアセンター長、各委員長、法人本部長

④外部委員を招いての自己点検評価委員会の開催

日 時：平成 31 年 3 月 28 日 10：00～12：00

外部委員 4 名

- ・天本俊太氏（社会福祉法人みのり会理事長）
- ・池田大輔氏（長崎新聞社経営企画室部長）
- ・原田宏子氏（長崎市企画財政部 政策監）
- ・林田純雄氏（長崎県立長崎明誠高等学校長）

(7)高等学校における主な取り組み

①夏休み学習会

期 間：平成 30 年 7 月 23 日（月）～27 日（金）

1 年生 国英数の 3 教科で基礎学力の定着を図る

2 年生 各系列別授業で、進路に向けて学習を深める

3 年生 進路決定に向けて具体的な学習・準備に取り組む

②就職希望者学習会

期日：平成 30 年 7 月 24 日（火）

長崎公共職業安定所長崎新卒応援ハローワークによる講演

③インターンシップ

期 間：平成 30 年 8 月 1 日（水）～3 日（金） 3 日間

参加者：2 年生 48 名 18 事業所

④長崎女子短期大学ピアノ応援プラン

期 間：平成 30 年 8 月 6 日（月）～8 日（水）

参加者：3 年生 22 名

⑤「長崎原爆の日」平和学習

期 日：平成 30 年 8 月 9 日（木）

⑥第 1 回クレインズフェスティバル 2018

期 日：平成 30 年 10 月 13 日（土）13：00～16：00

場 所：メルカつきまち 5 F

ステージ部門：コーラス部、器楽部、ダンス部

展示部門：美術部、書道部、写真部、華道部、インターアクトクラブ

その他：食物部（クッキーのおみやげ）、龍踊部の演舞

⑦系列学習発表会

日 時：平成 31 年 2 月 22 日（金） 5・6 校時

参加者：3 年生・2 年生

⑧キャリア学習発表会

日 時：平成 31 年 3 月 8 日（金） 5・6 校時

参加者：1 年生

(8)附属幼稚園における主な取り組み

①子育て支援事業「わくわくクラブ」の実施

②プレ入園 2 歳児教室「のびのびクラス」の実施

③野菜の育成、試食等を通じた食育への取り組み

④環境整備（玄関付近の花苗植栽・園庭の芝生保全等）への取り組み

⑤保護者アンケート・教職員への自己点検評価の実施

⑥防犯訓練・避難訓練の年 3 回ずつの実施

2. 入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数（平成 31 年度入試）

<短期大学：入学定員 200 名>

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	内長崎女
推薦入試	149	149	149	149	39
自己推薦 1 期	8	8	6	6	1
自己推薦 2 期	1	1	1	1	
一般前期	8	5	5	4	
一般後期	2	2	2	2	
社会人	7	7	7	7	
合 計	175(168)	172(166)	170(165)	169(164)	40(42)

合計欄()は前年度分

<高等学校：入学定員 150 名>

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦入試	57	57	57	57
専願入試	30	30	28	28
併願入試	125	124	122	14(入学率 7.5%)
一般入試	23	21	20	5(入学率 33%)
合 計	235(300)	232(294)	227(286)	104(131)

合計欄()は前年度分

<幼稚園：収容定数 110 名>

	年少少 (満 3 歳児)	年少 (3 歳児)	年中 (4 歳児)	年長 (5 歳児)	計
進 級 児	—	0	31	0	31
転入・入園児	1	31	5	42	79
合 計	1(0)	31(31)	36(42)	42(37)	110(110)

()は前年度分

3. 学生・生徒の就職・進学状況（平成 30 年度卒業生）

<短期大学>

平成 31 年 3 月 31 日現在

学科・コース	卒業 数(A)	就職希望 (B)	就職決定 (C)	進学	未定 その他	就職率 C/B	就職率 C/A
栄養士	43	42	40	1	2	95.2%	93.0%
ビジネス	28	28	27	0	1	96.4%	96.4%
介護福祉士	18	18	18	0	0	100.0%	100.0%
幼児教育	101	100	100	0	1	100.0%	99.0%
合計	190	188	185	1	4	98.4%	97.4%

<高等学校>

平成 31 年 3 月 31 日現在

内 訳	卒業数	決 定	未 定	決定率	備 考
進 学	100	100		100.0%	
就 職	28	27	1	96.4%	
合 計	128	127	1	99.2%	

Ⅱ. 財務の状況 (3カ年の収支状況)

1. 事業活動収支計算書 (平成 28 年度～30 年度)

○収入の部

(単位：千円)

科 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
学 生 生 徒 等 納 付 金	568,903	593,093	577,355
手 数 料	9,381	8,748	8,060
寄 付 金	573	5,397	1,087
補 助 金	241,087	264,220	263,545
付 随 事 業 収 入	66,240	79,535	86,126
雑 収 入	18,772	7,736	9,623
退職金財団受入金収入	25,023	86,249	47,944
教育活動収入合計	929,979	1,044,978	993,740

○支出の部

人 件 費	543,867	542,758	522,134
退 職 金	25,023	87,212	22,102
退職給与引当金繰入額	0	0	26,142
教 育 研 究 経 費	339,306	295,939	298,598
管 理 経 費	114,931	116,422	119,395
借 入 金 等 利 息	0	0	0
徴収不能引当金繰入額	26	1,260	0
教育活動支出の部合計	1,023,153	1,043,591	988,371
教育活動収支差額	△93,174	1,387	5,369

教育活動外収支差額	7,357	17,321	16,962
特 別 収 支 差 額	148,014	28,582	13,613
基本金組入前収支差額	62,197	47,290	35,944
基 本 金 組 入 額 合 計	△200,304	△208,743	△42,341
当 年 度 収 支 差 額	△138,107	△161,453	△6,397
前年度繰越収支差額	△867,407	△952,144	△1,096,249
基 本 金 取 崩 額	53,370	17,348	0
翌年度繰越収支差額	△952,144	△1,096,249	△1,102,646

※教育活動収支差額について、平成 28 年度においては支出超過となっていたが、平成 29 年度は、短大、高校共に在学者が前年度を上回り、学生生徒等納付金収入が増加したこと、短大の補助金が増額になったこと、また、高校の耐震化工事に伴う校舎解体が終わり、教育研究経費が減額になったこと等から、1,387 千円の収入超過に転じた。平成 30 年度においても学生納付金収入は減額となったが、人件費の減額等により教育活動収支差額は 5,369 千円収入超過となった。

しかしながら、基本金組入後の当年度収支差額は、平成 28 年度が△138,107 千円、平成 29 年度が△161,453 千円、平成 30 年度が△6,397 千円で支出超過となった。また、平成 30 年度の翌年度繰越収支差額は△1,102,646 千円となった。

2. 資金収支計算書（平成 28 年度～30 年度）

○収入の部

（単位：千円）

科 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
学生生徒等納付金収入	568,903	593,093	577,355
手 数 料 収 入	9,381	8,748	8,060
寄 付 金 収 入	561	5,397	3,146
補 助 金 収 入	505,973	296,451	272,500
受取利息・配当金収入	20,357	17,321	16,962
付 随 事 業 収 入	66,197	79,591	86,144
雑 収 入	5,981	5,647	9,083
退職金財団受入金収入	25,023	86,249	47,944
借 入 金 等 収 入	0	0	0
前 受 金 収 入	106,324	117,011	121,939
そ の 他 の 収 入	96,145	232,155	123,002
資金収入調整勘定	△325,723	△225,786	△168,262
前年度繰越支払資金	2,507,032	1,515,067	1,386,433
収 入 の 部 合 計	3,586,154	2,730,944	2,484,306

○支出の部

人 件 費 支 出	543,867	542,758	522,134
退 職 金 支 出	25,023	87,212	22,102
教 育 研 究 経 費 支 出	253,477	195,583	184,454
管 理 経 費 支 出	100,668	99,543	102,921
施 設 関 係 支 出	949,081	254,192	13,757
設 備 関 係 支 出	54,012	51,872	20,328
資 産 運 用 支 出	119,754	67,000	67,130
そ の 他 の 支 出	110,350	88,572	48,374
資金支出調整勘定	△85,145	△42,221	△20,702
翌年度繰越支払資金	1,515,067	1,386,433	1,523,808
支 出 の 部 合 計	3,586,154	2,730,944	2,484,306

※翌年度繰越支払資金について、平成 29 年度においては高校耐震化二期工事による施設関係支出のため、前年度より△128,634 千円となった。また、平成 30 年度においては工事完了もあって前年度より 137,375 千円増の 1,523,808 千円となった。

3. 貸借対照表（平成 28 年度～30 年度）

○資産の部

（単位：千円）

科 目		平成 28 年度末	平成 29 年度末	平成 30 年度末
資 産	固定資産	5,245,912	5,495,490	5,467,690
	有 形 固 定 資 産	4,136,838	4,323,338	4,227,253
	特定資産・その他固定資産	1,109,074	1,172,152	1,240,437
	流動資産	1,744,521	1,505,302	1,577,493
	合 計	6,990,433	7,000,792	7,045,183

○負債の部・基本金の部・繰越収支差額の部

科 目		平成 28 年度末	平成 29 年度末	平成 30 年度末
負 債	固定負債	236,814	234,597	256,602
	流動負債	194,877	160,163	146,605
	計	431,691	394,760	403,207
基 本 金		7,510,886	7,702,282	7,744,622
繰越収支差額		△952,144	△1,096,250	△1,102,646
純資産合計		6,558,743	6,606,032	6,641,976
負債及び純資産合計		6,990,433	7,000,792	7,045,183

※資産総額について大きな変動はない。流動資産については平成 29 年度においては前年度より△239,219 千円となった。平成 30 年度においては、前年度より 72,191 千円増加した。

Ⅲ. 法人の概要

1. 学校法人 鶴鳴学園

所在地：〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 1 号

理事長：原田 延介

2. 設置する学校・学部・学科等及び学生・生徒・園児数（H30.5.1 付）

(1)長崎女子短期大学 所在地：〒850-0823 長崎市弥生町 19 番 1 号

学長：玉島 健二

学科・コース	入学定員	収容定員	1 年生	2 年生	在籍合計
生活創造学科					
栄養士コース	60	120	29	43	72
ビジネス・医療秘書コース	40	80	16	28	44
介護福祉士コース		40		18	18
幼児教育学科	100	200	120	103	223
合 計	200	440	165	192	357

(2)長崎女子高等学校 所在地：〒850-0834 長崎市上小島1丁目11番8号
校長：小野 良介

学 科	入学定員	収容定員	1 年生	2 年生	3 年生	在籍合計
普通科	150	450	131	152	129	412

(3)長崎女子短期大学附属幼稚園 所在地：〒850-0823 長崎市弥生町19番2号
園長：鈴木 賢二

区分	収容定数	3 歳児	4 歳児	5 歳児	在籍合計
3～5 歳児	110	31	42	37	110

3. 理事・監事＜平成30年度＞

理事・監事	氏 名	現 職 等
理事長	原田 延介	理事長
理 事	原田 雄司	副理事長
理 事	玉島 健二	長崎女子短期大学学長
理 事	小野 良介	長崎女子高等学校校長
理 事	田中丸善保	佐世保玉屋株式会社社長
理 事	小原 四郎	株式会社新日本不動産社長
理 事	井口 國雄	株式会社あたご社長
理 事	犬塚 光男	元長崎女子高等学校校長
監 事	志賀 定義	医療法人清潮会顧問
監 事	平山 寿則	平山税理士事務所所長

4. 理事会の開催状況＜平成30年度＞

開催年月日	主な議案	出席数
平成30年5月30日	① 平成29年度事業報告について ② 平成29年度決算報告について ③ 決算の確定に伴う平成30年度予算の補正について ④ 報告事項 ・小島特別奨学基金の運営状況について ・小島特別奨学基金制度等の見直しについて ・現況報告について	理事 8名 監事 2名
平成30年9月26日	① 任期満了に伴う理事（学識経験者）の選任について ② 任期満了に伴う監事候補者の選出について ③ 任期満了に伴う評議員（法人職員）の推薦について ④ 任期満了に伴う評議員（卒業生）の選任について ⑤ 任期満了に伴う評議員（学識経験者）の選任	理事 7名 監事 2名

	について	
平成 30 年 10 月 1 日	① 任期満了に伴う理事長の選任について	理事 8 名 監事 2 名
平成 30 年 10 月 1 日	① 平成 31 年度学納金について ② 長崎女子短期大学学則の一部変更について ③ 報告事項 ・現況報告について ・短大・高校の収支状況について ・短大生活創造学科について	理事 8 名 監事 2 名
平成 30 年 12 月 11 日	① 長崎女子短期大学学則の一部変更について ② 学園人事（短大教員の昇任人事）について ③ 収支改善施策（経営改善計画）について ④ 報告事項 ・現況報告について	理事 8 名 監事 2 名
平成 31 年 3 月 27 日	① 理事長の選任について ② 評議員（学園職員）の推薦について	理事 8 名 監事 2 名
平成 31 年 3 月 27 日	① 平成 30 年度予算の補正について ② 平成 31 年度事業計画について ③ 平成 31 年度予算について ④ 平成 32 年度（2020 年度）学納金について ⑤ 長崎女子短期大学学則の一部変更について ⑥ 職員人事について ⑦ 報告事項 ・現況報告について	理事 8 名 監事 2 名

5. 評議員 17 名（欠員なし）

6. 評議員会の開催状況（平成 30 年度）

開催年月日	主な議案	出席数
平成 30 年 5 月 30 日	①平成 29 年度事業報告について ②平成 29 年度決算報告について ③決算の確定に伴う平成 30 年度予算の補正について ④報告事項 ・小島特別奨学基金の運営状況について ・小島奨学基金制度等の見直しについて ・現況報告について	評議員 17 名 (内委任状 2) 監事 2 名
平成 30 年 9 月 26 日	①任期満了に伴う評議員（法人職員）の選任について	評議員 17 名 監事 2 名
	①任期満了に伴う理事（評議員会選出）の選	評議員 17 名

平成 30 年 10 月 1 日	任について ②任期満了に伴う監事の選任同意について	監事 2 名
平成 30 年 10 月 1 日	①平成 31 年度学納金について ②長崎女子短期大学学則の一部変更について ③報告事項 ・現況報告 ・短大・高校の収支状況について ・短大生活創造学科について	評議員 17 名 監事 2 名
平成 30 年 12 月 11 日	①長崎女子短期大学学則の一部変更について ②学園人事（短大教員の昇任人事）について ③収支改善施策（経営改善計画）について ④報告事項 ・現況報告について	評議員 17 名 監事 2 名
平成 31 年 3 月 27 日	①理事長人事について ②評議員の選任について ③平成 30 年度予算の補正について ④平成 31 年度事業計画について ⑤平成 31 年度予算について ⑥平成 32 年度（2020 年度）学納金について ⑦長崎女子短期大学学則別表の一部変更について ⑧職員人事について ⑨報告事項 ・現況報告について	評議員 17 名 監事 2 名

7. 学園合同会議

学園合同会議は、理事長の諮問会議であり、学内理事と監事及び各部門の幹部職員により構成され、定例的に開催されている。ここでは学園（理事会）と短大・高校・幼稚園の教学が一体となって問題意識の共有を図るとともに、日常的な学生・生徒等の動向あるいは保護者からの要望等についても情報を共有する。また、理事会提案事項等の調査研究、企画立案、調整を行うなどの機能も有している。

○構成員

構成員	理事長、学園長、副理事長、監事、短大学長、高校校長、幼稚園長、法人本部長、法人本部次長、短大事務局長、高校事務長
-----	--

○平成 30 年度学園合同会議開催状況

	開催年月日	主な議案・報告事項
第 1 回	平成 30 年 4 月 18 日	①新年度募集目標及び運営方針について ②その他

		・小島奨学金制度について ・その他
第2回	平成30年5月23日	①5月30日開催理事会・評議員会議案について ・平成29年度事業報告について ・平成29年度決算報告について ・決算の確定に伴う平成30年度予算の補正について ・現況報告について ・小島奨学金の運営状況について ・小島奨学金制度の見直しについて
第3回	平成30年6月20日	①平成31年度募集に向けた取り組み状況について ②部門別報告事項について ③その他
第4回	平成30年7月24日	①部門別報告事項について ②鶴鳴LIVE（オープンスクール）について ③短大オープンキャンパスについて ④その他
第5回	平成30年8月20日	①部門別報告事項について ②短大生活創造学科の改編計画の基本方針について ③その他
第6回	平成30年9月12日	①9/26及び10/1開催理事会・評議員会議案について ・理事・監事・評議員の改選について ・平成31年度学納金について ・長崎女子短期大学学則の一部変更について ②部門別報告（理事会現況報告）について ③短大・高校の収支状況について ④短大生活創造学科について ⑤その他
第7回	平成30年10月17日	①平成31年度募集状況について ②部門別報告について ③収支改善施策について ④その他 ・平成30年度予算の執行状況について
第8回	平成30年11月20日	①平成30年度予算の執行状況について ②収支改善施策について ③平成31年度募集状況について ④部門別報告について ⑤その他
第9回	平成30年12月5日	①12月11日開催の理事会・評議員会議案につ

		いて ・長崎女子短期大学学則の一部変更について ・長崎女子短期大学教員の昇任人事について ・収支改善施策（経営改善計画）について ・現況報告について ②その他
第 10 回	平成 31 年 1 月 25 日	①成 30 年度予算の執行状況について ②平成 31 年度募集状況について ③収支改善施策について ④その他
第 11 回	平成 31 年 2 月 20 日	①成 31 年度募集状況について ②平成 31 年度予算編成の基本方針について ③平成 32 年度学納金について ④部門別報告事項について
第 12 回	平成 31 年 3 月 18 日	①3 月 27 日開催の理事会・評議員会議案について ・理事長人事について ・評議員人事について ・平成 30 年度予算の補正について ・平成 31 年度事業計画について ・平成 31 年度予算について ・2020 年度学納金について ・長崎女子短期大学学則別表の一部変更について ・職員人事について ・現況報告について ・収支改善施策について

8. 教職員（H30.5.1 付）

		理事長・学園長 副理事長	短大	高校	幼稚園	本部	合計
教 員	専任		17	15	8		40
	特専・常勤		8	13			21
	非常勤		41	8	2		51
職 員	専任	3	18	4	3	4	32
	非常勤		2	1	3		6
合 計		3	86	41	16	4	150

9. 建学の理念・教育目標

(1) 建学の精神

－ 鶴九皋に鳴きて声天に聞こゆ －

中国の古典「詩経」の小雅・鶴鳴篇の中の一節で、本学園の建学の精神である。鶴は、人に知られない山奥の沢辺で鳴いても、その声は遠くまで達するという意味であり、この詩句には深い人間的意味が込められている。

社会の中で人に知られなくても、地味だが現実根ざして誠実に生き、学びつづけている人は、深い谷間で鳴く鶴の声が、やがて天の高みまで響くように、必ず人々から高く評価されるようになるということである。

本学園では、深い誠実な生き方を示す「至誠」を基本として、人間教育を大切にし、「品性」を涵養する学園を創造しつづけている。

(2) 短大の教育理念・教育目標・学位授与の方針

○教育理念

創立以来、輝く女子教育の伝統と歴史の上にたち、建学の精神に基づいて、深い学理の探求と優れた技術の練磨とによって、社会の平和と幸福の増進に寄与し、自立性をもつ現代女性の育成を使命とする。

○教育目標(学訓)：「尽心・創造・実践」

尽心・創造・実践は、建学の精神と教育理念に基づいて生まれたものである。即ち、常に至誠の心をもって事に当たり、「もの・こと」の本質を見つめつづけ、古き慣習にとらわれず、より良きもの、より高きものを創ることに努め、かつこれを単なる理念にとどめることなく実践することを意味する。

○学位授与の方針

教育目標（学訓）と学修成果の到達目標に基づいて開講されている教育課程の科目を履修し、学則に規定する成績評価の基準で卒業に必要な単位を修得した者。これにより社会に貢献できる資質を身につけた者に、短期大学士の学位を授与する。

(3) 高校の校訓・教育方針・教育目標

○校訓：「真心・創意・共生」

○教育方針

創造的意志を大切にし、豊かな教養と人間性を育むとともに国際的視野に立ち、共に生きる思いやりの心を有する女性の育成を目指す。

○教育目標

- ①生命の尊さを学び、優しい心を育てる。
- ②自然と環境を愛し、人間尊重の精神を育てる。
- ③清らかな心を育て、品性の向上に努める。
- ④基本的生活習慣を確立させ、精勤を奨励する。

- ⑤学業を大切にし、進路目標の達成に努める。
- ⑥個性を伸ばし、感性豊かな表現力を育てる。
- ⑦ねばり強く取り組む気力・体力を育てる。
- ⑧校内の美化と地域・社会への奉仕に努める。
- ⑨生徒会活動や部活動の活性化に努める。
- ⑩多文化との交流を深め、国際的視野を広める。

(4)附属幼稚園の教育目標

豊かな学園環境の中で、たくましく、やさしい、思いやりの心を大切に育てる。

- いのちを大切に「ありがとう」の言える子ども
- 明るく元気にあいさつのできる子ども
- 表現豊かで創るよろこびをもつ子ども
- 友だちと仲よく遊べる子ども
- あきらめずやりぬこうとする子ども

10. 学園の沿革

年 月	事 項
1896(明治 29) 年 10 月	長崎女子学院を創立（市内出来大工町 27） 新潟県出身の笠原田鶴子が、欧米視察のため長崎に立ち寄った折、外国との交流のある長崎でありながら意外と女性の地位が低いことを痛感し、欧米視察を断念して、女子教育に情熱を燃やすことを決意した。 教師 4 名、生徒 2 名でのスタートであった。
1901(明治 34)年 4 月	伊良林町 77 番戸に移転、校名を「鶴鳴女学校」と改称 教師 8 名、生徒 50 名 「鶴鳴」の由来は、中国の詩経「鶴九臯に鳴いて声天に聞こゆ」の句による。また創立者笠原田鶴子の名に因んだものであった。
1906(明治 39)年 3 月	原田豊一第 2 代校長に就任
1912(明治 45)年 4 月	「鶴鳴実科高等女学校」と改称、定員 250 名
1918(大正 7)年 3 月	原田アサ第 3 代校長に就任
1920(大正 9)年 5 月	「鶴鳴高等女学校」に改称
1921(大正 10)年 2 月	校舎を現在地の上小島に移転
1925(大正 14)年 1 月	原田アサ校長、ロンドン留学（昭和 3 年帰国）
1947(昭和 22)年 4 月	鶴鳴中学校設置
1948(昭和 23)年 4 月	学制改革で「鶴鳴女子高等学校」と改称（普通科）
1951(昭和 26)年 3 月	学校法人鶴鳴学園と組織変更 原田アサ初代理事長に就任
1951(昭和 26)年 4 月	「商業科」を増設
1952(昭和 27)年 4 月	鶴鳴幼稚園が高校敷地内に開園、原田アサ初代園長に就任
1959(昭和 34)年 10 月	鶴鳴中学校廃止
1960(昭和 35)年 6 月	原田鶴代第 2 代理事長に就任
1960(昭和 35)年 12 月	原田寅次郎第 4 代校長に就任
1960(昭和 35)年 12 月	原田寅次郎鶴鳴幼稚園第 2 代園長に就任

1966(昭和 41)年 4 月	鶴鳴女子短期大学開学（家政科） 原田寅次郎初代学長に就任
1966(昭和 41)年 4 月	旭が丘鶴鳴幼稚園開園（弥生町） 原田寅次郎初代園長に就任
1966(昭和 41)年 10 月	学園創立 70 周年記念式典を挙行
1967(昭和 42)年 4 月	短大の家政科を家政専攻と食物栄養専攻に分離増設
1969(昭和 44)年 4 月	鶴鳴女子短期大学を長崎女子短期大学に改称
1970(昭和 45)年 4 月	短大の家政科家政専攻を家政専攻と被服意匠専攻に分離増設
1970(昭和 45)年 6 月	短大の学生募集低迷のため次年度の学生募集停止の決定をなす
1970(昭和 45)年 11 月	短大の学生募集再開
1970(昭和 45)年 11 月	長岡達第 2 代学長に就任
1970(昭和 45)年 12 月	川崎周之第 5 代校長に就任
1970(昭和 45)年 12 月	法人本部を設置
1971(昭和 46)年 4 月	原田慶子鶴鳴幼稚園第 3 代園長に就任
1971(昭和 46)年 8 月	原田延介第 3 代理事長に就任
1972(昭和 47)年 1 月	長岡達旭が丘鶴鳴幼稚園第 2 代園長に就任
1972(昭和 47)年 1 月	川崎周之鶴鳴幼稚園第 4 代園長に就任
1973(昭和 48)年 4 月	短大に幼児教育学科を増設
1973(昭和 48)年 4 月	原田延介鶴鳴幼稚園第 5 代園長、旭が丘鶴鳴幼稚園第 3 代園長に就任
1975(昭和 50)年 10 月	学園創立 80 周年記念式典を挙行 初代理事長原田アサ胸像建立
1977(昭和 52)年 9 月	短大体育館が完成
1978(昭和 53)年 4 月	藤田源次郎第 6 代校長に就任
1979(昭和 54)年 1 月	短大に新学生寮「若竹寮」完成
1979(昭和 54)年 4 月	原田延介第 3 代学長に就任
1979(昭和 54)年 4 月	原田慶子学園長に就任
1980(昭和 55)年 4 月	太田多美子鶴鳴幼稚園第 6 代園長に就任
1980(昭和 55)年 4 月	山川雅雄旭が丘鶴鳴幼稚園第 4 代園長に就任
1982(昭和 57)年 4 月	短大の家政学科家政専攻と被服意匠専攻を統合し生活文化専攻を新たに設置
1983(昭和 58)年 4 月	稲永侑三旭が丘鶴鳴幼稚園第 5 代園長に就任
1984(昭和 59)年 3 月	旭ヶ丘鶴鳴幼稚園の園舎が短大敷地内に新築移転
1984(昭和 59)年 4 月	稲永侑三鶴鳴幼稚園第 7 代園長に就任
1985(昭和 60)年 4 月	長谷川信第 4 代学長に就任
1985(昭和 60)年 4 月	長谷川信第 7 代校長に就任
1985(昭和 60)年 10 月	学園創立 90 周年記念式典を挙行
1988(昭和 63)年 4 月	短大家政学科を生活科学科に生活文化専攻を生活情報専攻に改組
1988(昭和 63)年 4 月	法人本部を短大内に移転
1990(平成 2)年 4 月	菊谷元資第 5 代学長に就任

1990(平成2)年4月	前田英昭第8代校長に就任
1993(平成5)年2月	高校の校舎・体育館の外壁全面改装工事完了
1994(平成6)年4月	江副功第9代校長に就任
1994(平成6)年4月	前田英昭鶴鳴幼稚園第8代園長、旭が丘鶴鳴幼稚園第6代園長に就任
1994(平成6)年10月	短大の新校舎完成(100周年の先駆け工事)
1995(平成7)年4月	中西弘樹第6代学長に就任
1996(平成8)年10月	学園創立100周年記念式典 記念事業として高校第二体育館新築・グラウンド整備工事が完成
1997(平成9)年4月	鶴鳴女子高等学校を長崎女子高等学校に改称 進路別コースがスタート
1997(平成9)年4月	鶴鳴幼稚園を長崎女子短期大学附属第一幼稚園に、旭が丘鶴鳴幼稚園を長崎女子短期大学附属第二幼稚園に改称
1998(平成10)年4月	田中正明第10代校長に就任
2000(平成12)年4月	田中正明第7代学長に就任(校長兼務)
2000(平成12)年4月	柳原邦弘長崎女子短期大学附属第一幼稚園第9代園長、第二幼稚園第7代園長に就任
2001(平成13)年4月	短大の生活科学科に生活福祉専攻(介護福祉士養成)を設置
2002(平成14)年4月	犬塚光男第11代校長に就任
2004(平成16)年4月	原田延介理事長 第12代校長を兼務(犬塚光男副校長) 長崎女子高等学校「商業科」を廃止 長崎女子高等学校入学定員変更(500→200)
2004(平成16)年4月	長崎女子短期大学附属第一幼稚園と第二幼稚園を統廃合し、長崎女子短期大学附属幼稚園に統一(第一幼稚園休園)
2005(平成17)年4月	犬塚光男長崎女子短期大学附属幼稚園第10代園長に就任
2005(平成17)年9月	短大1号館外壁全面改修工事完了 短大校舎と学生寮食堂連絡通路工事完了
2005(平成17)年10月	財団法人短期大学基準協会の第三者評価訪問調査 10月20日・21日
2006(平成18)年3月	財団法人短期大学基準協会の第三者評価において「適格」認定
2006(平成18)年4月	馬場正典第13代校長に就任
2007(平成19)年4月	長崎女子高等学校入学定員変更(200名→170名)
2008(平成20)年4月	江副功第8代学長に就任
2008(平成20)年4月	柳川伸一第14代校長に就任
2009(平成21)年6月	奈良県の奈良佐保短期大学と相互評価締結について調印
2010(平成22)年4月	短大の生活福祉専攻を「介護福祉専攻」に名称変更
2010(平成22)年4月	短大が奈良佐保短期大学と相互評価を実施
2010(平成22)年8月	短大が文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」採択
2011(平成23)年3月	長崎女子短期大学附属第一幼稚園廃園
2011(平成23)年3月	高校第一体育館・短大学生寮の耐震化工事が完了

2011(平成 23)年 4 月	短大の生活情報専攻を「生活総合ビジネス専攻」に名称変更
2011(平成 23)年 4 月	鈴木賢二長崎女子短期大学附属幼稚園第 11 代園長に就任
2011(平成 23)年 10 月	学園創立 115 周年記念演奏会―掛屋剛志ピアノコンサート―
2012(平成 24)年 9 月	(財)短期大学基準協会第三者評価評価委員 4 名が現地調査
2013(平成 25)年 3 月	(財)短期大学基準協会第三者評価 2 回目の「適格」認定
2013(平成 25)年 4 月	小野良介第 15 代校長に就任
2013(平成 25)年 8 月	高校龍踊部が全国総文祭優秀校東京公演に県代表として出場
2013(平成 25)年 9 月	短大トイレ全面改修工事完了
2014(平成 26)年 4 月	浦川末子第 9 代学長に就任
2014(平成 26)年 4 月	長崎女子短期大学生活科学科を生活創造学科に名称変更、併せて専攻を廃止しコース制に改組（栄養士コース定員減 80→60）
2014(平成 26)年 4 月	長崎女子高等学校の入学定員減（170→150）
2015(平成 27)年 6 月	長崎女子高等学校進入道路工事着工
2015(平成 27)年 7 月	文部科学省運営調査
2015(平成 27)年 12 月	長崎女子高等学校耐震化改築工事に伴う校舎解体工事に着手
2016(平成 28)年 4 月	玉島健二第 10 代学長に就任
2016(平成 28)年 4 月	長崎女子高等学校耐震化改築工事(第一期工事)着工
2016(平成 28)年 6 月	長崎女子高等学校進入道路工事完了
2016(平成 28)年 12 月	長崎女子高等学校耐震化改築工事(第一期工事)完了
2017(平成 29)年 11 月	長崎女子高等学校耐震補強工事(第二期工事)完了
2018(平成 30)年 3 月	短大が文部科学省「平成 29 年度私立大学等改革総合支援事業」(タイプ①・タイプ⑤)に採択される
2018(平成 30)年 3 月	長崎女子短期大学入学定員 40 名減（生活創造学科介護福祉士コース募集停止）
2019(平成 31)年 3 月	短大が文部科学省「平成 30 年度私立大学等改革総合支援事業」(タイプ①・タイプ⑤)に採択される
2019(平成 31)年 3 月	長崎女子短期大学生活創造学科「介護福祉士コース（入学定員 40 名）」の 2 年生が卒業し、同コースの廃止が完了した これにより入学定員は、生活創造学科は栄養士コース 60 名、ビジネス・医療秘書コース 40 名、幼児教育学科 100 名で、計 200 名となる
2019(平成 31)年 3 月	原田延介第 3 代理事長が辞任 次年度から原田雄司副理事長が第 4 代理事長に就任することが決定される

IV. 今後の課題について

入学年齢人口の減少という厳しい運営を強いられる状況下で、学園の存続を如何に図っていくかが大きな課題である。何より短期大学、高等学校、幼稚園を擁する総合学園として相互の連携を一層強化し、地域での存在感を高めていかなければならない。

短期大学においては、生活創造学科の定員未充足が最大の課題である。「介護福祉士コース」は2年生の卒業により今年度で廃止が完了したが、残った「栄養士コース」「ビジネス・医療秘書コース」も定員を大きく下回る結果となっている。独自の奨学金制度の活用などにより両コースの募集にこれまでも増して全力をあげなければならない。定員充足率が改善しないようであれば、改編計画も念頭に入れておく必要がある。定員を充足している幼児教育学科においては、これまで以上に地域に根差した教育活動に取り組んでいかなければならない。

高等学校においては、耐震化工事が全て完了し、施設設備は一新された。しかしながら、生徒募集においては非常に厳しい結果であった。今後は充実した施設設備の中で、普通科総合選択制高校としての特色を鮮明にするとともに、短期大学との連携教育を中心とした進路支援教育、地域を想定したキャリア教育を地域に定着させることが課題である。

幼稚園においては、「認定こども園」化の時期を見据えながら、当面は短大の附属幼稚園としての特色を一層鮮明に、近隣地域に愛される「幼稚園」としての生き残りに取り組むことが課題である。

いずれにしても、限られた財源の有効活用による将来ビジョンの策定が急務である。